

日本クリーンシステム

バングラデシユ開拓

ゴミ圧縮貯留装置販路調査

日本クリーンシステム（JCS、大阪市平野区、山野正二郎社長）は、バングラデシユで同社製品の市場調査を始めた。2022年夏までゴミ圧縮貯留装置「ゴミック」に関し、現地の自治体のゴミ収集施設や民間商業施設などの販路を調査する。試算では同国内の官・民需で200台の潜在市場を想定。同装置で、同国の非効率なゴミ管理体制の改善を目指し、海外事業拡大にもつなげる。

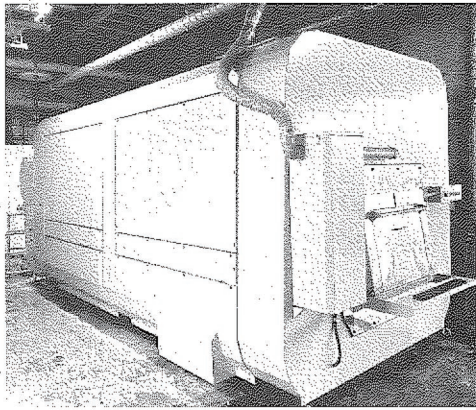
潜在市場官・民需200台想定

調査は国際協力機構（JICA）の中小企業・SDGsビジネス支援事業として、日本開発政策研究所（東京都千代田区）と現地企業のニュービジョンが

共同で首都・ダッカ市で行う。他の市でも調査を検討し、装置施工

会社など現地パートナー企業を探る。政府開発は、ゴミが長期間むき出しで放置されたり、作業員が人力でゴミを運搬するなど、ゴミ管理に課題を抱える地域が多いという。同装置の紹介を受けた自治体の一部からは、既に引き合いも出ている。

ゴミックの本体価格は1000万～2000万円程度で、日本や香港の商業施設や集合住宅などで累計1500台以上の販売実績を持つ。同社の山野正高常務は「人口が増加し、成長市場でもあるバングラデシユで製品の普及させ、ゴミ管理の改善に尽くしたい」としている。



ゴミ圧縮貯留装置「ゴミック」
（日本クリーンシステム提供）

バングラデシユで